

南海トラフ地震備え 岡山でフォーラム



広域避難をテーマに意見交換したフォーラム

基調報告では、東日し、個々の事情に応じて
本大震災の避難者を支 伴走型でケアする「災害
援する一般社団法人 ケースマネジメント」を
「ほっと岡山」(岡山 取り入れる重要性を強調
市)の服部育代代表理 した。
事が登壇。長期避難者 被災者支援に詳しい兵
支援について、家庭や 庫県立大大学院(神戸市)
就労、メンタルなど多 の青田良介教授は「南海
岐にわたる課題を把握 トラフ地震が起きると、

広域避難の課題探る

近い将来に発生が懸念される南海トラフ地震に備え、大規模災害時に他の自治体に身を寄せる「広域避難」をテーマにしたフォーラムが1日、岡山市内で開かれた。避難者をサポートする際の課題や対策などについて意見交換した。(岸研一)

情報把握、支援格差 専門家が議論

中国地方にも多くの被災者が避難する可能性がある。受け入れ体制を整える必要がある」と呼びかけた。
パネル討議では、東日本大震災の避難者らでつくる「ひろしま避難者の会 アスチカ」(広島市)の三浦綾代表が、被災者の避難先の把握が不十分な実態を指摘。「自治体を持つ避難者情報の共有も課題だ」とした。川崎医療福祉大(倉敷市)の田並尚恵准教授は避難先の自治体によって支援が異なる現状に触れ「どこでも同じような支援が受けられる仕組みづくりが大切」とした。
フォーラムはほっと岡山が主催し、オンラインを含め約40人が聴講した。